

# 林豊廣の錦鯉よろろず相談室

第49回

〜愛鯉家による、愛鯉家のためのコーナー〜  
 鯉は上手に育てると長寿を保ちます。今回は健康で長く生きる飼育を考え  
 ていきました。



林豊廣氏

約30年前から山口県・星出養鯉場の手ほどきを受けて始めた錦鯉は、飼育だけでなく、生産も手掛けている。その豊富な経験から近隣の愛好家のよきアドバイザーとして、東奔西走する忙しい毎日を送っている。

池を造って20年くらい経ちますが、2年以上飼育すると、鯉が死んでしまいます。なぜでしょうか？

—— 今回、質問を寄せられた方は、手造り池のようです。そのほかの情報としては、以下のとおりです。

- ・ポンプを2台使用。
- ・新水は水道水。
- ・20〜30cmクラスを17尾ほど飼育中。

池水量、濾過システム、餌の内容などが不明のため、鯉の死亡原因をさぐるのは簡単ではないと思いますが、わかる範囲で解説をお願いします。

林 鯉が死ぬ原因を突き止めるのは難しいですが、この場合は、原因を「鯉」と「飼育環境」の2つに分け、それぞれのチェック項目をあげていきましょう。

—— 原因には、どんなものがありますか？

林 次のように考えてみました。

- ・鯉が原因の場合
  - 給餌
  - 体表のキズ、鰓の異常
  - ウイルス
  - 背コケ

・飼育環境が原因の場合

- 濾過バクテリア
- 新水（補給水）
- 溶存酸素量
- 池水の濁り
- 葉浴
- 濾過槽の掃除

- 林 「鯉が死ぬ原因とチェックすべき項目」をまとめたので、参考にしていただけだと思います。
- 今回、質問を寄せられた方以外の愛鯉家も、鯉が異常なときには、チェックしてみるといいですね。
- 林 今回の質問者からの情報で、問題の要因として考えられるものは、次の3つです。
- ① 池を造って20年とあることから、経年変化、濾過材・濾過槽造、飼育環境に要因がある。
  - ② 濾過槽・飼育池の水温上昇とともに、細菌が繁殖して魚病を発症していると思定できる。
  - ③ 新しく購入した鯉の消毒不足。

—— 要因は特定できたとして、どのように改善すれば良いでしょうか？

林 改善策としては、定期的に濾過槽・池を掃除して、細菌・寄生虫の駆除をすること、新しく購入した鯉の消毒を徹底することでしょう。

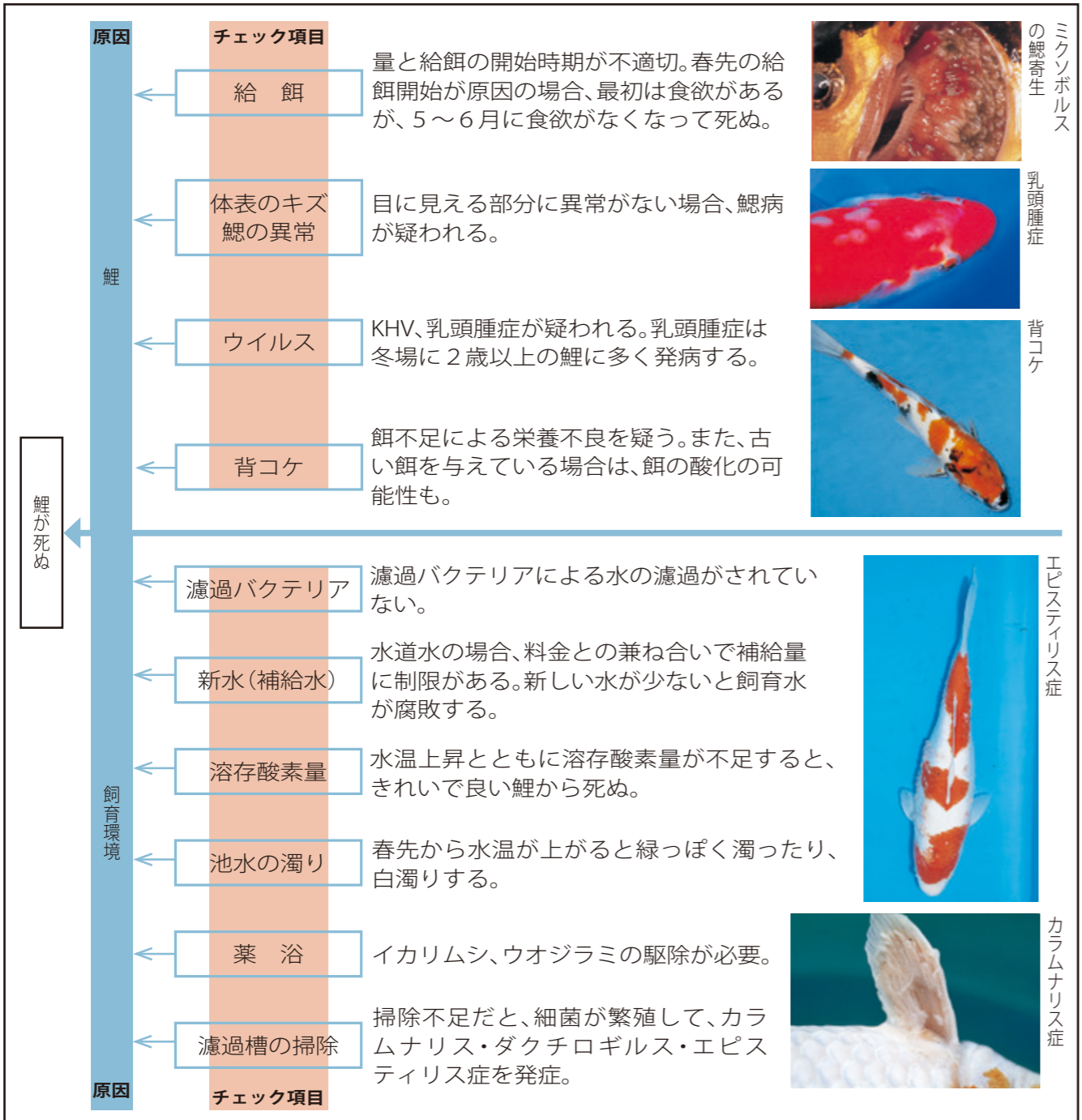
—— 上手に飼育している私の鯉友がいるので、その飼育ポイントをまとめておきましょう。

・濾過槽の掃除方法

掃除方法としては、濾過槽・沈澱槽ともに掃除用ポンプで汚れを排出しています。濾過槽は4つに分かれているので、1週間に1つ掃除をすることで、1カ月ですべての濾過槽を掃除するサイクルになります。沈澱槽は毎日、掃除します。

このコーナーでは、錦鯉の飼育に関する読者からの質問を受け付けております。メール、FAX、愛読者カードのいずれかで質問をお寄せください。

- ・細菌・寄生虫の駆除消毒
  - 春と秋に、0.6%の塩とデミリンとメチレンブルーで消毒しています。消毒することで、病気に罹るリスクが少ないように感じています。池の循環は止めません。
- ・濾過槽の種類
  - ロール濾材とネットを被せたステンレス製の自作の濾材です。
- ・濾過槽の洗浄時の餌止めと塩水浴
  - 餌止め、塩水浴ともにしていません。
- ・濾過槽の掃除
  - 濾過槽とは別に湧清水を設置し、溜まった汚れを毎日4回ほど排水しています。
- ・濾材を取り出したり、壁面や床をブラシ掛けすることはありません。濾材自体がそれほど汚れていないので、濾過槽の水を抜いて掃除する必要はありません。



鯉が死ぬ原因とチェックすべき項目

原因	要因	状態
飼育水	購入した飼育水と自宅の飼育水の環境の違い	当初は泳いでいるが、次第に泳がなくなり、池底に留まる。
給餌	購入してすぐに給餌を開始する	当初は食欲があるが、次第に食べなくなり、水の落ち口に寄る
薬浴	購入した鯉の消毒不足	新しい鯉だけでなく、以前から飼育していた鯉も発病したり、死亡する。
鯉	比較的高い鯉・質の良い鯉ほど弱い	新しい鯉だけがなぜだか弱る

## 新規購入鯉が死ぬ原因と要因

ンの愛鯉家の飼育方法を聞いて、うまく取り入れることが飼育上手への近道かも知れませんがね。

林 鯉友は100トン池で飼育しています。池の水量や設備によって、いろいろと違いはあるでしょうから、どの方法がベストかはそれぞれが答えを探すべきでしょう。

—— ところで、質問者の方は購入した3万円くらいの鯉がすぐ死ぬけれど、どのようにしたら長く飼育できるかというもう一つの悩みをお持ちだそうです。

林 おそらく当歳を購入した場合でしょう。ここでは当歳と仮定して、回答してみましよう。原因は「飼育水」「給餌」「薬浴」「鯉」にあると考えられます。要因等については、表にまとめました。

—— 表にすると一目瞭然ですね。林 改善策としては、飼育水の環境変化への対応と餌切り、購入した鯉の消毒をしっかりとすることです。

前回の鯉友は当歳鯉を育てる名人でもあります。購入鯉をどのようにケアしているのかを聞いたので、参考にしてください。

### ・隔離

専用の隔離水槽があるので、そこで飼育します。秋〜冬に購入した当歳は、翌年にメイン池の水温が20〜25℃になった時点で水槽からメイン池へ移します。

購入した鯉の隔離は、絶対に必要だと思います。隔離水槽には、濾過設備を設置して、飼育水の腐敗を防ぎます。

### ・飼育水

飼育開始の一週間前くらいから、隔離水槽に水道水を入れて濾過循環を始めます。飼育中は掃除の都度、メイン池の水を足していき、水質に慣れさせます。

### ・給餌開始時期

様子を見て、問題なさそうであれば、翌日から餌を少量ずつ与え始めます。最終的にはメイン池と同じ回数になるように、徐々に増やしていきます。

### ・購入した鯉の消毒法

隔離水槽で濾過循環したまま、塩とエルバージュで薬浴します。

### ・加温設備

20〜25℃で加温飼育します。水槽の側面は発泡スチロールで覆って、水温が下がらないようにしています。

—— そのほか、どんな点に注意すればいいでしょうか？

林 信頼できる鯉屋さんから購入することです。特に健康状態は細かくチェックすると鯉友は話していました。

—— 新しく購入した鯉は隔離して様子を見ることが絶対条件のようですね。

林 鯉友の場合、最終的な目標は100トンのメイン池で飼育が可能な状態にすることです。そのために、給餌量や水質をメイン池と同じになるように、少しずつ近づけていきますね。それが成功の秘訣になっているようです。愛鯉家それぞれの目的があると思うので、いろいろと工夫しながら、飼育していくといいでしょう。

—— トライアンドエラーを繰り返して、飼育技術の向上をめざしたいものです。